



暑中お見舞い

申し上げます。

今年もお盆の季節がやってまいりました。当山では、貴家のご先祖様のご供養として、次の通り法要を営みます。どうぞご家族そろってご参拝ください。

平成十八年八月吉日

松巖山 東園寺

檀信徒法縁者各位

東園寺のお盆法要

八月十二日 午後六時

精霊迎え（施餓鬼会）

皆様のご先祖様に代わり現世に生きる我々が、餓鬼界（六道輪廻の飢餓の世界）の者達に米や山海の珍味を備え、その功德をご先祖様に回らせ、ご先祖様のご冥福を祈る法要です。また餓鬼を救う七人の如来さまの御名号（精霊札）を開眼し、ご先祖をお迎えする準備の法要と致します。但し供養料は十三日よりの受付と致します。

八月十三日 終日

七如来名号（精霊札）授与

庫裏受付で、七如来名号（精霊札）をお受けください。お受け頂いた名号は、外袋に家名を明記し本尊様の前に安置してください。

八月十四日 午前十時 新亡供養

昨年のお盆より、本年のお盆をお迎えするまでに亡くなられた方のご供養です。該当される方々には、改めてご案内申し上げます。

八月十六日 終日 精霊札返納

午後六時精霊送り法要

ご先祖様をお見送りする法要です。返納された精霊札の家名を読み上げ供養致します。

（参考）お盆中の供養料は、本年より八月十三日から十六日の何れかに、供養料と盆礼併せて、一度だけ納めて頂ければ結構です。その際は、忌中（四十九日以内）でなければ、赤の熨斗袋に「お布施」と記載して頂ければよろしいかと存じます。

○南無寶輪如来
○南無多寶如来
○南無妙色身如来
○南無廣博身如来
○南無難勝如来
○南無甘露王如来
○南無阿彌陀如来



盆塔婆

お盆供養のミニ塔婆です。ご自分の墓地にお供え頂いても結構ですが、他家の墓地に参拝した際にお供え頂ければ、施主名が記入されておりますので参拝の証となります。供養料は七〇〇円です。多数お求めの際には、事前に電話等でお申し込み頂ければ幸甚と存じます。

地藏流し

本年の地藏流しは九月六日(水)午前十時です。地藏流しはお盆の締めくくりの法要です。是非ご参加ください。お申し込みは八月八日より承ります。

※八月八日より一斉募払いです。各自墓地を清掃してお盆を迎えましょう。

七如来の功德

お盆にまつられる七如来には次のような功德があるとされます。

● 寶勝如来

諸々の仏弟子等が、寶勝如来の名前を聞けば、能くその罪業を消滅してくれる。

● 多寶如来

諸々の仏弟子が多寶如来の名前を聞けば、よく財宝を満たせしめ、財宝が意のままに尽きることが無い。

● 妙色身如来

諸々の仏弟子が妙色身如来の名号を聞いてこれを信仰すれば、よくもろもろの鬼神の醜い姿を変じて素晴らしい容姿にすることが出来る。

● 廣博身如来

諸々の仏弟子が、廣博身如来の名をとனால்、餓鬼のようなその細い喉を広げ、素晴らしい飲食を得さしめることができる。

● 離怖畏如来

諸々の仏弟子が、離怖畏如来の名号を聞けば、常に安樂を得て、永く驚怖を離れて清浄快樂に過ごすことが出来る。

● 甘露王如来

甘露王如来の名号を唱えれば、甘露の飲食を食することの出来ない無數の餓鬼が、如来の妙なる教えを得て、その教えを甘露の飲食と為して、悉く苦難を免れる事が出来る。

● 阿彌陀如来

諸々の仏弟子が阿彌陀如来の名号を聞けば、仏弟子達を西方極樂世界の蓮の台に往生させて、不退転の境地に導いてくれる。



先住十三回忌を迎えて



時の過ぎ行くのは早いもので、来る七月十五日をもって、先住職精道和尚の十三回忌を迎えることとなりました。精道和尚は三十九歳で東園寺住職となり、十六歳で遷化するまで二十七年間住職を勤めました。その間、二つの幼稚園の設立、三重塔、鐘楼、大庫裏の建立のほか、妙心寺派花園会本部長、宗会議員、聖和学園高等学校校長を歴任するなど、佛祖のご加護と、檀信徒の皆さんの協力を

頂きながら、文字通り席の暖まる暇も無い活躍を致しました。在任期間が二十七年であったことを思うと人並みはずれた実行力を備えた人であったと思います。

人間とは様々な面をもっています。先住の評価というものも人様々であり、「やり手」というイメージを持たれる方も居られれば、「怖かった」という人も、聖和学園の生徒などには「優しい、面白い」という評価を頂いているようです。さて、

息子であり弟子である小納の意見を申せば、「宗教的情熱に長けていた人」或いは単に「優しい親父」というところでしょうか。晩年骨髄癌の激痛に耐えながら本堂でお参りする痛々しい姿は、全盛期を知る人にとっては、寂しさを越えて衝撃的なものでありました。しかし体調の落ち込んだとき程、新たな布教活動を計画するという積極思考と情熱には、吾が父ながら驚くことが度々でありました。一昨年まで当山を中心に開催しておりま

した、ハワイ高校生の日本文化研修のためのホームステイも先住さんが始めたこと受け継いだだけであります。

思えばこの十二年間、先住和尚に操られるように随分仕事をさせてもらいました。先住時代からの懸案事項であった本堂の修繕、隣地の買収などは次々に解決しており、十三回忌では真前に良い報告が出来たと自負しております。

人間の命というものはいつ尽きるとも限りません。それぞれが限りある命を自覚し、それぞれが為すべきことを全力で行うことこそが釈迦さまの教えであります。先住の晩年の姿はまさにこれを教えてくれたのだと思います。先住の比すれば、まったく浅学非才なる身ではありますが、自分なりに精進していく所存でございますので変わらぬご法愛を賜りますようお願い申し上げます。

成也 合掌

国際臨済禅交流協会二ニュース

先般ご報告申し上げましたミャンマー旅行参加者より紀行文が寄せられましたので掲載させていただきます。下山様竹前様にはご寄稿を感謝致しますとともに掲載が遅くなりましたことを心よりお詫び申し上げます。

黄金のバゴダ国ミャンマーへ 学校を贈る〜悠久七日間の旅

東園寺総代 下山雄司

国際臨済禅交流協会のご支援の下、仏経国ミャンマーの子供達に小学校を贈りましたという事で、支援活動チャリティコンサート開催等を通して、星住職、千坂住職を始めとして二十五名前後の方々が親善大使として二月十七日〜二月二十三日まで、ヤンゴン、バガン、マンダレーとミャンマーの主要都市に泊りながら活

動して来ました。旅行会社に勤務する傍ら、本国ミャンマーへの理解を深めるべく熱き思いを語り本人もいくつか学校を寄贈して活動していたスーザ・ミョウタンに、私も多くの方々も共鳴し何とかその目的を実現してあげたいと思つての旅でもありました。又、戦没者供養、平和祈念法要など、その活動をもう一つの目的に掲げての旅でもあり、今回の主旨に賛同してくれた方々の誠を届けるという大切な使命を受けての旅でもありました。

さて、ミャンマーに着いてから、驚くやら、ビックリするやら、感心するやら大変でした。ヤンゴンにあるミャンマー仏教の総本山と言われているジェエダゴンバゴダを見学した時は全員裸足での参拝であった。そして、エレベーターを使つて上り、その上は建物全体（仏像）に金箔が施され、上部には六千個を超える宝石がちりばめられているらしく仏像は電飾による後光が射していた。そこは、裸足での参拝でしか許されていない、神

聖な場所、空間で老若男女問わずみんな着飾らず心身に仏像に向つて手を合わせていた。ミャンマーの生活は御世辞にも豊であると言えないくらい貧しいのであるが質素儉約してでも仏教を信じ求め支えているという自負と誇りをその姿、光景から感じとれた。「有相は無相の対絶するところにあり」と、仏教では説いているがミャンマーの仏教寺院はまさしく国民の姿そのものを写していると思つた。

さて、マンダレーの町、ユアテ村小学校の落慶式では学校関係者、生徒達、近所の方々、学校に行けない子供達、みんな



子供たちの歓迎を受ける

な両国の国旗を振って、私達一行を熱烈

に歓迎してくれた。もちろんスージー・

ミョータンの配慮もあってか、文部省、軍、

行政の代表の方々も来てくれていた。住

職らは、小学校の栄光に、三帰依文、般

若心経、回向を唱えた。その後テーブカ

ット両国代表のあいさつ、そして生徒一

人一人に全員でランドセルが手渡された。

生徒達みんなうれしそうに喜んでいた。

待ちに待った瞬間でグッと込み上げるも

のがあった。夜には寄贈小学校の先生方

を囲んでの「歓迎夕食会」が宿泊ホテル

で行われた。トラブルで一時間半以上も

遅れるというハプニングがあっても誰一

人として席を離れることなく待っていて

くれたの開催でもあった。しかも、校長

先生を始め、遠くて出席できないかも知

れないと言っていた先生方も全員来てく

れて、その行動熱心に心を打たれた。

私はミャンマーに来て良かったと思った。

そしてこれからも学校に行けない子供達

がたくさんいることも含めて、浄財を集

めて住職らと共に活動を生き長く続け行

きたいと思った。

また、マングレーの高原の町、メイミ

ョーの山奥にある陸軍墓地では稲富副住

職の先達の下、三帰依文、般若心経、回

向を唱え、戦没者供養をした。そのあと、

全員で「ふるさと」を歌った。私も住職

もみんな涙が止まらず泣いた。自然に手

を合わせ戦争の悲惨さを感じ二度と戦争

を起こしてはならないと思った。

そして、最後の訪問地ヤンゴンの町、

オカラッパ日本人墓地、勇兵団慰霊碑で

は星住職の導師の下、般若心経、平和祈

念回向、開甘露文、戦没者供養回向が唱

えられた。そのあと、全員で「ふるさと」

さらに「海行かば」を歌って平和祈念法

要とさせていただいた。そして、ここで

も涙が止まず。手を合わせるのがやっと

という感じでした。

五泊七日、星住職、千坂住職、多くの

方々と事故なく怪我なく無事に旅行出来

た事に感謝を申し上げます。みな様ご苦

労様でした。そして、ありがとうございます

ました。

ミャンマー旅行記

竹前直子

いよいよ春も間近になって、日差しが
明るいいこの頃でございます。

長いあいだ念願しておりましたミャン
マーにでかけてまいりました。

友人の「四〇年前の日本の農村風景に
近いものがありますよ」とのことばを聞
いて以来、どうしてもミャンマーに行き
たかったのです。

「インドには、呼ばれた人しか行くこ
とができない」ということを聞きますが、
このミャンマーも、もしかしたら「呼ば
れた人」だけが行くことができるのでし
ょうか。



バガン遺跡遠景



読経して戦没者を供養

ご存知のように、ミャンマーは軍事政権下にあります。空港や市内ではそれほど『軍事政権』ということ、直接意識する場面はありませんでした。しかし、ガイ

ドの KHIN MG MYINT 氏（キンさん）が、「スーチーさんを訪問もう九回目のミャンマー訪問という渡

カンボジアのアンコールワット遺跡、インドネシアのボロブドール遺跡と並んで、世界の三大仏教遺跡と称される、ミャンマーのバガン遺跡を見たいという思いもありました。

はるかなミャンマーは、成田からバンコク経由で、首都ヤンゴンに入ります。海に面した国ですが、インド・中国・タイ・ラオスなどと国境を接していますが、現実には、陸路からの入国はできません。

今回のツアーは、「国際臨済禪交流協会」の皆さんが企画し、私は運良く合流することができたのです。



したら、私も運転手も逮捕されて二〇年間牢屋に入れられますから、訪問することはできません」と言うことばに、ちよつとびつ

りました。

私たちが、スーチーさんのことを質問したわけでもないのに、自分からそんな話題を出したということに、この人は、軍事政権に抵抗しているんだな」という印象を受けました。

スーチーさんは、ヤンゴン市内のどのあたりに住んでいるのだろうか？と思いましたが、キンさんの立場を考えて、質問は遠慮しました。

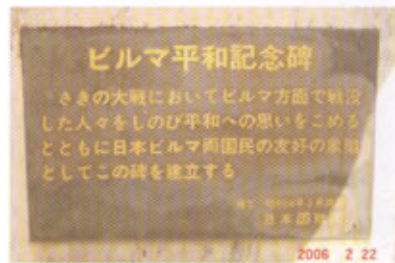
第二次世界大戦のことをほとんど知らず、また、知ることを避けてきた私ですが、ツアーに参加した方々は、いろいろな関わりをお持ちでした。



辺さんは、八十二歳で、今回が最後の旅になるだろうとおっしゃいます。

お兄さんが戦死なさった場所まで行きたいと願っていたそうですが、

これまでは「命の保障ができない」という理由で、実現しなかったそうです。やっと何とか行けそうだとの情報により、渡辺さんはツアーから一時離脱して、案内人と無事にミツチナー方面においてになりました。



大正十年生ま

れの三浦さんは、お孫さんと参加なさいました。

ミャンマーの

あちこちの村には、ひっそりと日本人墓地が佇み、

途中の町で花とお供えものを購入して、

私たちは、雑草のしげる畑の中の小道を（…こういうところなのか…）と思

いがらたどったのでした。

三浦さんが紙コップに水を入れてお供えし、「日本の水ですよ、さあ、飲んでください」と話しかけていた姿が印象的でした。

たくさんさんの小さな墓地のお参りもありましたが、首都ヤンゴン郊外のオカラッパ日本人墓地で慰霊の法要が行われました。ここは、絶望的な激戦がくり広げられた場所なのです。

ミャンマーの乾季にあたるこの時期は、一番しのぎやすい筈なのですが、それで



焼香する参加者

も日中の太陽は、容赦なくじりじりと頭上から照りつけてきます。

このオカラッパのあたりで、重い銃をかつぎ、暑さと餓えに苦しみながら、敗色濃いなかで死んでいった日本兵の姿や、ともに犠牲になった現地の方々のことが、いま、ありありと思われました。

私たちは、かすれる声で「ふるさと」を三番まで歌いましたが、それは、途中でですすり泣きもまじり、とぎれとぎれになるのでした。

ミャンマーの山々から朝日がのぼると、あの山の向こうはタイで、その向こうは



カンボジアで、さらにベトナムを抜けると

はるか南シナ海のさらに向こうには、日本があるんだ！ということが、ドキドキするほど思われま

した。

「日いずる国」と表現した聖徳太子は、すごいものです。

今回のツアーのもうひとつの目的は、「国際臨済禅交流協会」がマンダレー郊外にプレゼントした「ユアテ小学校」の落慶式（開校式）に出席することです。

ミャンマーでは小学校は義務教育ですが、子どもを学ばせるには、やはりお金がかかりますから、現実にはなかなかむずかしい面があります。

先生は公務員として給料が出ますが、校舎を建てるのは自治体ですから、校舎建設費用の捻出が困難です。





子どもたちに囲まれる千坂住職

「国際臨済禅交流協会」の千坂住職（塩釜市の東園寺）をはじめとするたくさんの方々の長い取り組みが実り、日本円の二五〇万円で木造平屋の校舎が完成しました。

仏紀二五四九年二月二日（火）の落慶式は、忘れたいものでした。

一三五人の小学生たちが、ミャンマーの国旗と日の丸の小旗をパタパタ振りながら、校舎に続く小道に勢揃いしています。鼻をたらししている子もいますが、たいていは清潔な洋服を着て、中にはお化粧している女児もいます。この日のために、新品の真っ白いワイシャツを着せられて、緊張しながら、なにやら歓迎の歌を歌って旗を振っています。

想定外の「熱烈歓迎」です。ミャンマーでは、緑色のスカートやズボンと白い上着が通学スタイルのようです。



ツアー参加者は思い思いの手みやげを持参して、先生方へお渡ししました。

私は図書館の倉庫に眠っている処分されなかったチョークを持参しました。真ん中の先生が持参している茶色の紙袋がそれです。

今回は開校式のため、授業参観はできませんでしたが、そのチョークを使っている学習の様子を見るチャンスがなく、残念です。

けれど、ミャンマーの子どもたちの識字率があがり、やがては文化や生活の向上に結びつくにちがいないと思いました。一三五人のユアテ小学校の子どもたちのことを、とてもかわいいと思いました。

じつは、学齢に達していても修学できずに校舎の窓から身を乗り出して、この行事を食い入るように眺めているたくさんの子



どもたちがいました。ああ、この子たちも勉強したいんだということが、参加者にもひしひしと伝わってきます。暑さをもとめせず、

学校のまわりの空き地に大勢集まった村の人たちから発せられるエネルギーは、「教育」に対する期待を十分に感じさせるものがありました。

この国の未来は明るいと感じながら、私は、再びユアテ小学校を訪問したいと強く願っています。

※P5・P8の写真は竹前様に提供して頂きました。有難うございます。

国際臨済禅交流協会

平成十八年度の活動予定

○十一月中旬 インド ブダガヤにて坐禅セミナー

○平成十九年二月初旬

タイ国ワット妙心訪問

大乘寺宝林室老師の分骨塔参拝

タイ仏教青年会メディテーションセンター視察

ンター視察

寺庫紹介

うんご きよう
雲居希膺禪師墨蹟

心タモ慈悲正直ニモチヌレバ

誰モ自然ニニ世ハ安樂

南無西方弥陀如来



雲居禪師墨蹟

西方弥陀如来とはいっても無く西方浄土の阿弥陀如来のことである。雲居禪師の禅は念仏禅であると称されるが、その主著たる往生要歌集の「阿弥陀仏悟れば即ち此処不遠 迷えば遙か西にこそあれ」の言葉に代表されるように、心を落ち着け我々自身が自省し生きるならば、今生のこの身の場合こそが浄土であると主張するものであ

る。雲居禪師が政宗公の正室愛馬姫や娘五六八姫に教示した往生要歌は、大衆からも支持を受け、松島では、昭和四十年代まで往生要歌誦の風習が残っていた。

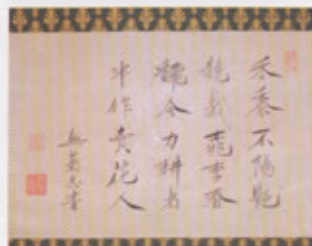
しかし、雲居禪師の念仏禅は妙心寺の怒りを買ったようで、往生要歌は、雲居禪師の弟子の南明によって回収され、版木ごと焼却されたという。雲居禪師自身も妙心寺開山三百年遠諱に対する出頭を阻まれ、蕃山で静かに最期をむかえたのである。世壽七十八。(当時の妙心寺の長老は愚堂禪師であった。愚堂禪師は元来雲居禪師とは朋友であり、雲居禪師が瑞巖寺に入寺する際も祝いの漢詩を送っているが、愚堂禪師の年譜より、彼自身が、安易な念仏に否定的であったことが理解できる。愚堂禪師の法流には白隠禪師があり、臨済宗中興の祖とされる。)

この墨蹟は縦二十二cm横七cmという小品で、在家の仏間の本尊、或いは念持佛として携帯されたものであろうか。写真では判読し難いが「心に慈悲と正直をもち続けられ、自ずから、親子の二代に亘り家運安泰である。」という意味の置き字がなされている。真つ黒に御香の煙の染み付いた本品は、雲居禪師の民衆教化の悲願と、古の民の篤い信仰を現代に伝えるものと言えよう。

無著道忠(むじやうだうしゆ)禪師偈頌

無著道忠は但馬の出身。妙心寺塔頭竜華院の竺印祖門の法嗣。江戸期を代表する学僧で三七四種九九一卷の著作を残した。世壽九十二。宝永四年妙心寺に出世、三度に渡り妙心寺住持を務めている。当山中興開山曹源和尚は無著禪師に参じている。瑞巖寺帰山後、石巻蛇田に無著禪師の寺号を拝借し竜華庵という庵を結んでいることから、曹源和尚が如何に無著を尊崇していたか想像できる。

「禾黍陽艶ならずと 競って桃李の春を栽う 繰って力耕の者をして 半ば賣花の人と作らしむ 無著道忠書」(イネやキビが美しくないと 桃やスモモばかりを栽培している。しかしそれでは墾田を生業とする人を花売り人にしてしまふ) 人間陽徳ばかりを求めると大切なものを失うというたとえであらう。



無著道忠墨蹟

(無著禪師の墨蹟は前回掲載致しましたが誤植が多々ございましたので、改めて掲載いたしました。ご了承ください。)



たのしいおもいでいっぱいのおねんかん 幼稚園だより



塩釜
中央幼稚園

塩釜
第二中央幼稚園



おいしそ～！



お茶会



動物園



ファミリーコンサート



入園式



書道教室



遠足



サッカー教室



不動堂大祭盆踊り



七夕まつり



七夕まつり キッズクラブ



プール遊び



スイミングスクール



坐禅会

毎週 日曜・朝七時
於 東園寺教化センター

平成 19 年度
新入園児
願書配布
9 月 1 日より



博多聖福寺様



グラバー園にて

恒例の東園寺青壮年部青松会の研修旅行が行われました。本年は二泊三日で博多～長崎の古刹を訪ねてまいりました。博多聖福寺細川白峰老大師、長性寺野口善敬師にはお忙しいところ格段のご厚情を賜り心より御礼申し上げます。

研修旅行

4/14～4/16

青松会



太宰府天満宮にて

花祭りの夕 花祭り子供大会

4月8日、本年の花祭りの夕は初めて本堂を会場に行われました。ジャズ歌手のテリー橋本さんに仏教聖歌を先導して頂き、皆で合唱いたしました。また全日本仏教婦人連盟より「花の種」を賜り、花祭りの夕と子供大会の参加者全員に配布させて頂きました。



行事報告

墓 地 情 報

新規墓地が出来ました。

基礎工事済で、墓地
永代使用冥加金

50万円 より

夫婦墓地 **40万円** (五十年間の墓地使用冥加金)



カポート付墓地

○個人墓、夫婦墓の準備が出来ました。

うちは子供がいないから墓地がもてない…とお困りの方。この墓地は継承者がおられなくても心配ありません。やや小さなお墓ですが、お寺が責任をもって、逝去より五十年間の供養をお約束いたします。詳細は寺務所まで。



個人墓夫婦墓

宗教法人 東 園 寺

〒985-0026 塩釜市旭町4-1

022(362)0777 寺務所

学校法人 東園寺学園

〒985-0012 塩釜市芦畔町13-51

022(362)8651 中央幼稚園

022(365)5616 第二中央幼稚園

022(364)4444 FAX

022(356)2933 ザ・ゼンクラブ

代表役員 千坂成也

理 事 長 千坂秀也

花園会・会長 阿部久壽